

● PART.1

ビッグネイキッドの戦闘力

ビッグネイキッドが熱い戦いを繰り広げ、カスタム好きにはたまらない草レース「テイスト・オブ・ツクバ」。このレースに参戦するビッグネイキッドのなかには、筑波サーキットを1分前半で、マシンによっては1分を切るタイムで周回する。そんなマシンのライダーから、ビッグネイキッドの戦闘力の高さを語ってもらった

素直な乗り方をすれば 楽しく乗れる素性

07年秋のテイスト・オブ・ツクバからゼファー1100で参戦し続けているのがカラスインターナショナル代表の新氏だ。その最初の印象は「ツーリングバイクなのに意外とサーキットで走りやすい」というものだったという。

「お客さんにゼファー1100ユーザーが多かったこともあって、ならゼファー1100で参戦しようかと決めました。ただし、ビッグネイキッドでレースなんてありえない」と当初は思っていたんですけどね。でも、実際に走って見たところ意外に走りやすく、これならいけるかな」と思い直し、フルノーマルから車体を作り上げていきました」

とはいえゼファー1100をレーサーに仕上げていくには正直なところ、ハードルが非常に高い。一番のネックはエンジンそのものの大きさと重量だ。大きさはバンク角を直接左右するが、かといって搭載位置は変更できない。そのためスーパースポーツのようにバンク角の深さに頼って一気に曲がるのではなく、手前

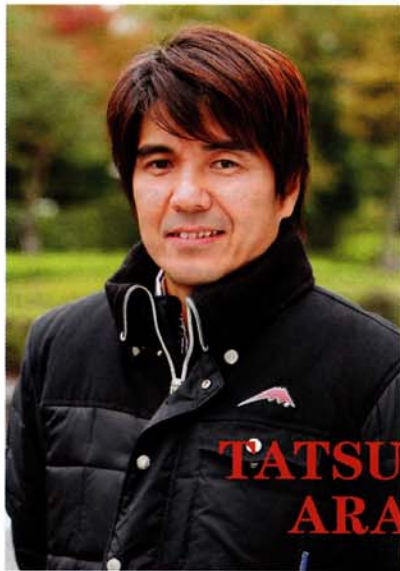
からのブレーキングが必須となる。

「バンク角も確保したいので足まわりの作り込みが重要になります。もちろん前後ショックは絶対に交換したうえで話ですが、またエンジンが重いので急激な動きではなく、穏やかな挙動を意識する必要がありますね。バイクなりの素直な乗り方をするのが一番です。」

ゼファー1100の特徴としては、ある程度のタイムまでは快適で、バイクらしい乗り味も楽しめます。しかしそれ以上からちょっと大変。ただし140ps弱までパワーアップしても、乗りやすいまなのが大きいですよ」

新 辰朗

全日本ロードレースなどで活躍後、カラスインターナショナルを立ち上げ「ストライカー」ブランドでマフラーやレーシングステップを展開している。アンテナショップ「ストライカーシステムヨコハマ」ではゼファー1100をはじめとしたカスタムマシン製作も行っている。最近では「ハーレー」や「釣り」など、新しいジャンルに進出中



TATSURO
ARATA



① 昨年はオーヴァー製オリジナルフレームを採用したが、11年春の「テイスト・オブ・ツクバ」ではノーマルフレームで参戦。予選からリヤの振れに悩まされたが、決勝ではベストラップ1分01秒397をマーク



② テイスト・オブ・ツクバ参戦で得たノウハウは一般ユーザーの車両にも積極的に反映。レースでの経験はワインディングなどでのスポーツ走行をターゲットにした車体作りにも有効なのだ

KAWASAKI ZEPHYR1100

素直な挙動に扱いやすさを感じて 可能性を見出せたため参戦

